

3章 地域づくりの手順

3-1 地域づくりの流れ

地域づくりを始めてみたいと思い立ったその気持ち。具体的にどのように取組んでいけばいいのか、地域づくりの流れを見てみましょう。




3-2 ステップ1 始めてみよう！（地域で話し合ってみよう）


始めの一步は、まず一人でもできることから。例えば、会った人にあいさつをする、通りから見える場所で花や緑を育てる、家の前の道路を掃除する、地元の店で買い物する、地域の行事に積極的に参加するなど。もうすでに取り組んでいるみなさんもいることでしょう。

こうした一人ひとりの小さな取組みの積重ねが、暮らしを豊かなものにしてくれるのです。

そして、一人で始めたことでも、仲間と一緒にやれば活動範囲が広がったり、一人の時よりも、もっとやりがいや楽しみが大きくなるかもしれません。

 郡山市民の^{つくいつねお}撞井恒夫さんは、一人で^{おうせ}逢瀬川の中のゴミを拾い始めました。最初は無関心だった人々も、徐々に清掃活動の支援が広がり、福島県の環境ボランティア活動の草分け的存在となりました。

自分たちの住む地域をより良くしていくために、楽しみながら取り組んでいくことが地域づくりの第一歩です。そして、知り合いや仲間と一緒に協力し合いながら、地域づくりを進めていきましょう。

 何をしてもいいかわからない場合は、地域での話し合いや役所・役場などに相談してみましょう。



郡山市湖南(こなん)地区



福島市飯坂(いいざか)温泉地区



古殿町越代(こしだい)地区



会津若松市芦ノ牧(あしのまき)温泉地区

元気ふくしま、
地域づくり・交流促進事業の
活用地区における
花の手入れや清掃活動の様子



田村市早稲川(わせがわ)地区



三春町三春(みはる)地区



南相馬市はやま湖地区



西会津町奥川(おくがわ)地区

3-3 ステップ2 地域を知ろう！（活動（楽しいこと）をもっと広げてみよう）

地域づくりの一步を踏み出したら、次に大切なのは、地域を知ることです。ずっと暮らしている地域でも、改めて見直すことで、普段なにげなく見ている風景も新鮮に見え、地域の良さや魅力を再発見することがあるかもしれません。

■ まち歩きをする

まちの姿を知ったり、まちの歴史を探ったりするためには、改めてまちを歩いて、調べ、感じる事が一番です。

地図、筆記用具、カメラなどをもち、身軽な格好で地域を歩いてみましょう。一人でもできますが、仲間と一緒に歩くとより楽しいものです。

そして、地域の良いところ、悪いところ、どちらともいえないところ等をメモしたりスケッチした後は、みんなで話し合っ地域の魅力や特徴、課題等を整理し、共有することも重要です。

■ 資料を調べる

地域の概要を知るために、お住まいの市町村が作成している総合計画をはじめとする地域づくりに関する計画書や地域を紹介するパンフレット等を探してみましょう。

地域づくりに関するかわら版・ニュースレター等が発行されていれば、最近の地域づくりの状況が把握できます。

市町村史といった歴史の文献や古地図、過去の新聞記事等からかつての地域の姿を把握することも大切です。

■ 講演・セミナー等を聞きに行く

住民自ら地域づくりを考え行動するきっかけとなるような講演会等を企画・開催している市町村もたくさんあります。広報紙や市町村ホームページ等で開催案内を見つけたら、まずは出かけて行って、話を聞いてみてください。

■ お手本になる地域を見に行く

地域づくりがうまくいっている地域を実際に訪れることで、自分たちの地域づくりに活かせるヒントが見つかるかもしれません。地域づくりの事例を紹介しているホームページアドレスを載せていますので参考にしてください（p68）。



県の「元気ふくしま、地域づくり・交流促進事業」では、話し合いの場づくりはもちろん、まち歩きやプランづくり等も支援しています（詳しくは p75）。



こおり
桑折地区での地域資源調査

まちづくり瓦版 ~うつくしま、まちづくり推進レポート~

Vol.43 平成26年4月8日発行
今日のまちづくり瓦版は、新年後の地域づくり進捗を紹介し、合わせて、県内のまちづくり情報もお伝えします。

平成26年度地域づくり施策について（1）

1. 土木部まちづくり推進課
土木部では平成16年度から、地域の力々と一緒に
「① 地域資源の活用」
「② 交流人口の拡大」
「③ うつくしまふくしまの継承」
「④ 歩いて暮らせるまちづくり」
の4つの観点で「元気ふくしま、地域づくり・交流促進事業」に取り組んでまいりました。
また、東日本大震災や原発事故等の災害後は、
「⑤ 迅速り回復部の復興支援（復興まちづくりの推進）」
「⑥ 直轄事業に合わせた観光交流」
の2つを踏まえて取り組んでまいりました。
平成26年度は、「元気ふくしま、地域づくり・交流促進事業」に加えて下記の新事業を実施し、ふるさとへの帰還や地域主体のまちづくり・地域づくりを支援していきます。

元気ふくしま、地域づくり・交流促進事業
地域のいきいき創造事業（新創）
地域住民や地域づくり団体が主体となり、風土や観光資源などの地域資源を活用した地域づくりを、公共施設整備等を通じてハード・ソフト両面から支援します。
（主な実施箇所）



まちづくり瓦版~うつくしま、まちづくり推進レポート~



まちづくりに関する
講演会・セミナー

3-4 ステップ3 考えてみよう！（人と人の結びつきを広げてみよう）

地域を知ることによって問題・課題がはっきりしてきたら、その解決に向けた方法を考えてみましょう。ここからは、協力し合いながら進めていくことも重要となります。

■話し合いの場をつくる（懇談会・勉強会等の開催）

プランづくりを進める話し合いの場として、懇談会や勉強会等の集まりにより、人と人の結びつきが広がります。

また、よそ者を入れることにより、新たな発見やアイデアが生まれます。

懇談会で話し合われた内容は、地域づくりニュースやかわら版等として整理して地域に回覧・配布することで、地域全体で情報を共有し、自分たちの活動をまとめることも有効です。



ほんだいあたま
磐梯熱海地域づくり勉強会

■地域を良くするプランをつくる

地域の問題・課題を解決していくためには、どんな地域にしていきたいのかという「地域の将来像」とそれを実現するための「方針」をみんなが共有しながら地域づくりに取り組んでいくためのプランが必要です。

問題・課題を整理し、地域の将来像や目標・テーマを考えます。そして、具体的な活動内容を考えながら、意見を出し合い、みんなが取組んでいけるプランをつくります。

自分たちだけでプランをつくるのは難しいと感じる場合には、地域のプランづくりを応援するため、専門家やアドバイザーの派遣といった支援制度のある市町村も増えていきますので、相談してみてください。



にしあいづ
西会津町
おくがわ
奥川地域づくり会議懇談会

■考えたプランを試してみる（社会実験）

考えたプランが果たして効果的なのか、また導入にあたって何か問題はないのか...心配は尽きないと思います。

そこで、本格的に行動に移す前に、プランが地域に合っているかどうかを試す（社会実験）ことも有効な手段です。

例えば、賑わいのあるまちをめざして、期間限定でまちなかに休み処を作ったり、小さなイベントを開催したり、案内板を仮設置したりします。その効果を歩行者交通量やアンケート調査等により把握し、地域のプランに反映させていくことが可能です。



高校生が参加する
ワークショップ



喜多方蔵のまちづくり博覧会
「くらはく」



社会実験は、地域が抱える課題を解決するために考えた新しい施策を、場所や期間を限定して実際に体験することで、本格的に導入するかどうかを判断するものです。

3-5 ステップ4 やってみよう！（しっかりした組織をつくろう）

地域を良くするプランができあがったら、次は実践の段階です。地域づくりを担う様々な人たちの理解と協力を得ながら、できればNPO※や地域づくり団体を組織し、地域づくりを進めていきましょう。

※NPOとは：「NonProfit Organization」または「Not for Profit Organization」の略称で、様々な社会貢献活動を行い、団体の構成員に対し収益を分配することを目的としない団体の総称です。このため、収益を目的とする事業を行うこと自体は認められますが、事業で得た収益は、様々な社会貢献活動に充てることになります。

■ 地域づくり組織をつくる

地域づくりの活動は、一人でも行うことはできますが、仲間と協力し合うとより幅広く楽しい活動ができるため、仲間同士が集まって組織をつくって活動してみましょう。組織化することによって、いろいろな立場や考え方の人が集まり、相乗効果が生まれ、新しい考えが浮かんで課題を解決しやすくなるといった効果も期待できます。

地域づくり組織をつくる際には、同じ関心を持つ仲間からスタートし、少しずつ活動を広めて賛同する仲間を増やしていきます。そのためには、活動状況を口コミや広報紙、チラシ等で広めるといった積極的な情報発信が欠かせません。いつでも誰でも気軽に参加できる雰囲気にしておくことも大切です。

また、町会や自治会をはじめとする既存の組織や他の団体とも連携しながらネットワークを広げることも必要です。



西会津町
奥川地域づくり会議役員会



郡山駅前まちなか交流拠点
まざっせ KORIYAMA

■ 思いを広める行事・イベントを行う

ステップ3で考えたプランを進めていくためには、広く地域のみなさんに知ってもらい、協働で取組んでいくことが重要です。

そこで、プランを知ってもらうための説明会を開催して意見交換を行い、考え方を共有し、地域づくりに興味を持ってもらうことが重要です。

また、地域づくりのきっかけを見つけてもらうために、多種多様な行事・イベントを開催して、誰でも参加しやすい状況をつくることも必要です。



奥川地域づくり会議による
自然体験等の受け入れ



地域づくりやイベント等の支援例は p18 をご覧ください。

■住民や行政の役割分担によりまちを整備する

住民・行政のそれぞれが適材適所の考え方に基づく役割分担をして地域づくりに取り組むことが重要です。

道路や公園、河川といった公共公益施設の整備は基本的に行政が行いますが、清掃や歩道の花壇の手入れ等の維持管理は住民も協力できます。

きれいに整備された道路沿道では、住民が家並み（外観）を統一したり、屋号やのれん等のデザインを地域でそろえたり、イベント等に協力したり、地域づくりに住民の力を発揮できる場面はたくさんあります。



古殿町越代の桜と
住民が手入れしている花壇

3-6 ステップ5 続けてみよう！（行政の支援をあてにしないで続けよう）

地域づくりは、より楽しく長く続けていくことが重要です。

ステップ2～4の「知る」「考える」「やってみる」のサイクルを繰り返していくイメージで、身近にある課題を一つずつ解決して成果を実感することが、活動の継続につながります。

また、行政によるハード整備が一段落したら、住民の自主的な活動が主体となります。

■自主的な取り組みを継続する

地域づくりに終わりはありません。継続的な地域への関心や活動が、様々な人や情報とつながり、経験や実績等を生み出し、その蓄積が新たな地域づくりの目標や活動へとつながっていきます。

そのためには、活動を実施したら必ず振り返りを行って活動の成果・課題を共有し、新たな発見や見直しを通して改善していくことが重要です。



桑折町桑折御殿での
「おもてなし」の様子

■仲間を増やす・後継者を育成する・応援団をつくる

行事・イベントの開催や広報紙等を通じた情報発信を定期的に行い、活動内容を地域に周知することで、仲間を増やし、活動を継続的にやっていくことにつながります。

また、地域づくりに関する情報を提供したり、セミナー・講演会などへの参加を勧めたりして、後継者を育てていくことも大切なことです。

さらに、イベント等でつながりができ、毎年（毎回）参加を楽しみにしている人たちによる応援団をつくることも活動の楽しみとなります。



おおうちじゆく
大内宿 結いの会
屋根葺きの後継者育成



国や市町村の補助金の活用による自主的な取り組みの事例は p24 をご覧ください。



いわき市遠野地区
伝統技能継承講座

■ 取組みを深める・広げる

活動の実績が多くなってきたら、発表会やフォーラム等を開催し、地域の方々に活動内容を広く知ってもらうことで、やる気や活動意欲の向上、地域全体の地域づくりに対する機運の高まり等が期待できます。

また、同じ地域で活動している他の団体や、他地域の地域づくり団体等との交流によって、新たな手法・解決策の発見や活動の活性化に寄与する気づき等があるかもしれません。



くにみ
国見町歴史まちづくりシンポジウム



きたかた地域づくり懇談会

■ 続けるためのポイント～住んでよし、訪れてよしのまちづくり～

地域づくりを続けるためのポイントは、「**元気で楽しめる**」「**住民も来訪者も楽しい**」ということです。

地域づくりの活動は、誰かからの指示を待つのではなく、自分たちが楽しくできることを探して行うことができるものです。また、活動の合間のおしゃべりや終わった後の炊き出し等の**楽しみも欠かせません**。

住んでよし、訪れてよしのまちづくりをめざして、みんなで楽しく活動できるように工夫しながら続けていきましょう。継続は力なり！



道普請（東松峠）後の
打ち上げの様子



みしま
三島町でわっさの里まつり
(書や写真など自分の趣味・特技を
玄関先等で公開)